

■ 2024年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(理系)

総括

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

難易度・分量ともに昨年に比べてかなり軽量化した印象である。
問題の内容も典型的なパターンのもが多く、受験生にとっては手がつけやすかったのではないだろうか。
逆にいうと小さなミスによる失点が致命傷になりかねないのでこの点には十分注意したい。

〈特記事項・トピックス〉

昨年・一昨年と続けて出題されていた「資料を読ませてそれについての問題を解かせる」という新傾向の問題が本年は姿を消した。

〈合格への学習対策〉

難易度・分量とも標準的になった結果平均点は確実にアップすると予想される。今後もしばらくはこの傾向が続くと思われるので、標準問題を確実に解けるようにすること、ミスをせず最後の答えまでたどりつけることがこれまで以上に重要になってくるだろう。
しっかりとした基礎力と計算力を養うことを意識して日々の学習を行うことこそが合格への近道であると言って良いだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	記述	B・II	ベクトル, 微分	(2)の計算がかなり煩雑になるので、最後までミスせずに計算することができるかどうか得点を左右しそうだ。	標準
[2]	記述	III	複素数	$f(z)=0$ をみたす z を具体的に求め、そのそれぞれについて調べていくと良い。	やや難
[3]	記述	A	整数	(1)は簡単である。 (2), (3)で(1)の結果をうまく利用するのがポイント。	やや難
[4]	記述	II・A	平面座標, 場合の数	解答の方針に迷いそうな問題である。難しく考えずに図を描いて単純に数え上げるのが結局はベストなのかもしれない。	やや易
[5]	記述	III	積分, 数列の極限	部分積分によって積分についての関係式を導く入試においては頻出問題の一つであるが、そのタイプの問題としては難易度はやや高めである。 後半の極限値の計算においては(1)の結果を用いてはさみうちの形に持ち込むのがポイントである。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。